

探求と分析に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



VALUE ルーブリックは、全米の大学を代表する専門教職員が、学習の成果に関する各大学のルーブリックや関連文書を調査し、教職員からのフィードバックを参考にして作成されたものである。このルーブリックは、段階的達成レベルを示す能力指標により、各学習成果の原則的な基準を示すものである。このルーブリックは、各大学が学生の学習を評価し考察する目的で使用されるものであり、成績をつけるために使用するものではない。この 15 の VALUE ルーブリックに示された学生に期待される能力に関しては、各大学、専門分野、コースに応じて、それぞれの解釈が可能である。VALUE ルーブリックは、学生の成果に関し共通の手段と理解を共有することで、すべての学部レベルの機関での学生の学習を、一つの基本的な期待レベルの枠組みの中で位置づけるためのものである。

定義

探求とは、エビデンスの収集と分析を通じて、情報に基づく結論や判断を生み出すために、問題、対象、作業を探索する体系的なプロセスである。分析とは、複雑なテーマや問題を分解することでよりよく理解するプロセスである。

概要

このルーブリックは、様々な専門分野で使用できるように作成されている。探求に関する用語やプロセスは、それぞれの専門分野により異なるが、正しい探求と分析に関する基本的要素に言及する際には、できるだけ様々なアプローチや課題を反映できるよう広義の用語を使用するように努めた。(テーマの選択、既存、知識、設計、分析など) ルーブリックでは、学生が行う探求と分析のプロセスが、該当する専門分野において適切であることを前提としている。例えば、その専門分野において統計的手法による分析が適切であるならば、学生は、その分析のために適切な統計的手法を使用することが期待される。もし、学生が各基準において適切なプロセスを使用していないならば、その基準に関する学習成果は、1 か 0 と評価される。

また、このルーブリックは、探求と分析のプロセスそのものではなくその成果を対象とするものである。探求と分析の複雑さは、学生に対してどれだけの情報や指針が与えられたか、また、学生がどれだけそれを構築することができたかによって異なるものである。学生が構築するものが多ければ多いほど、探求のプロセスは複雑になる。したがって、このルーブリックは、学習の課題や目的が不明である場合にも使用することはできるが、それがはっきりしている場合に用いるのが最も効果的である。最後に、教員は、各ルーブリックの基準の重要事項や用語を、専門分野において、また学際的に適用することが期待される。

用語

下記は、このルーブリックにのみ適用される用語と概念の定義である。

結論	研究やエビデンスから導き出される重要な発見を総合したもの
制約	プロセスやエビデンスの批判
関連事項	探求の結果がより広い背景や現実に応用されるか

探求と分析に関する VALUE ルーブリック

詳細は、value@aacu.org を参照



定義

探求とは、エビデンスの収集と分析を通じて、情報に基づく結論や判断を生み出すために、問題、対象、作業を探索する体系的なプロセスである。分析とは、複雑なテーマや問題を分解することでよりよく理解するプロセスである。

単独の課題、または複数の課題を総合して、ベンチマーク（基準 1）に達しない場合は、0点と採点することを推奨する。

	最終基準	中間基準		ベンチマーク
	4	3	2	1
テーマの選択	重要だがまだ十分に探求されていない、創造的で焦点の定まった対処可能なテーマを見つけ出す。	関連する問題に適切に対処する、焦点の定まった対処可能、実行可能なテーマを見つけ出す。	対処可能、実行可能ではあるが、焦点が狭すぎて関連する問題に適切に対処できないようなテーマを見つけ出す。	あまりに一般的で広範囲すぎて、対処不可能、実行不可能なテーマを見つけ出す。
既存の知識・研究・見解	様々な見解やアプローチを示す関連する情報源から綿密な情報を作り上げる。	様々な見解やアプローチを示す関連する情報源から綿密な情報を提示する。	限定された見解やアプローチを示す関連する情報源から情報を提示する。	限定された見解やアプローチを示す無関係の情報源から情報を提示する。
設計プロセス	方法論と理論的枠組みのすべての要素をうまく開発する。方法論と理論的枠組みは、分野横断的に作り上げるものもあれば関連する分野から取り上げるものもある。	方法論と理論的枠組みの重要な要素を適切に開発するが、些細な要素は無視するか考慮に入れない。	方法論と理論的枠組みの重要な要素が抜けている、正しく開発されていない、または注意が払われていない。	探求の設計において、方法論や理論的枠組みが正しく理解されていない。
分析	中心的事項のパターン、相違点、類似点を洞察力をもって明らかにするため、エビデンスを整理し統合する。	中心的事項の重要なパターン、相違点、類似点を明らかにするため、エビデンスを整理する。	エビデンスを整理するが、重要なパターン、相違点、類似点を明らかにするための効果的なやり方ではない。	エビデンスをリストアップするが、整理されていない、または、中心的事項に無関係である。
結論	探求により分かったことから、論理的推測により結論を述べる。	探求により分かったことのみで限定した結論を述べる。結論は、探求により分かったことのみから生まれたものであり、それのみに対応するものである。	非常に一般的で、それゆえに探求により分かった範囲以外にも適用される結論を述べる。	探求により分かったことから、曖昧で、非論理的、根拠のない結論を述べる。
制約と関連事項	関連する、または根拠のある制約や関連事項に関し、洞察力をもって、詳細に論じる。	関連する、または根拠のある制約や関連事項に関して論じる。	関連する、または根拠のある制約や関連事項を提示する。	制約や関連事項を提示するが、無関係、または根拠がない。